



山上の説教から憲法九条へ

平和構築のキリスト教倫理

宮田光雄著

4月25日発売

現代の世界情勢の中で、山上の説教によって平和をつくれるのか――。

朝鮮半島の危機や南シナ海的情勢が取り沙汰され、憲法改正の企図が強まる中、キリスト者は、平和をつくる者としていかなる応答を求められているのか。

本書は、聖書釈義から思想的考察を経て、憲法九条に基づく防衛戦略構想に及ぶ、4つの論文を収録。イエスの徹底した平和の福音が政治学的にもアクチュアリティをもつという驚くべきメッセージ。

◆B6変型判・248頁・本体1800円

■著者の本

権威と服従

近代日本におけるローマ書十三章

◆本体2600円

十字架とハーケンクロイツ

反ナチ教会闘争の思想史的研究

◆本体7600円

ボンヘッフアーとその時代

神学的・政治学的考察

◆本体3800円

【目次より】

- 1 「右の頬を打たれたら左の頬をも向けよ」
《山上の説教》と平和構築の倫理
- 2 兵役拒否のキリスト教精神史
- 3 近代日本のキリスト教非戦論
内村鑑三の思想と系譜
- 4 非武装市民抵抗の構想
日本国憲法九条の防衛戦略

平和のコンセプト

聖書の・神学的視座から

J. マッカーリー著 東方敬信訳

キリスト教倫理の最も重要な概念として「平和」を捉え直し、その内実と広がりをも構成概念（コンセプト）の対象として精密に把握する試みの書。四六判 本体 1700 円

イエスと非暴力

第三の道

W. ウィンク著 志村 真訳

「絶対平和主義」でも「正戦論」でもなく、イエスの生き方を現代世界でいかに展開できるかを徹底的に考え抜く。9・11 後の非暴力論。四六判 本体 1600 円

教会と戦争

川端純四郎著

著者が残した数多くの論文、エッセイ、講演録などから 28 編を精選、多面的な活動の根底にあった信仰と思想の全体像を描き出す一書。四六判 本体 2500 円

希望の倫理

J. モルトマン著 福嶋 揚訳

テロ、戦争、貧困、環境破壊、生命操作など課題山積の 21 世紀を生きるための終末論的倫理。『希望の神学』でデビューした著者の神学的総決算。四六判 本体 4000 円

キリスト教と民主主義

現代政治神学入門

デ・グルーチー著 松谷好明・松谷邦英訳

キリスト教と民主主義という曖昧で絡み合った歴史・関係を解きほぐし、民主主義のヴィジョンと歴史的・具体的システムを批判的に神学する。四六判 本体 3600 円

キリスト教と社会の危機

教会を覚醒させた 社会的福音

W. ラウシェンブッシュ著 山下慶親訳

20 世紀初頭、アメリカをはじめ世界のキリスト教に大きな影響を与えた社会的福音（ソーシャル・ゴスペル）運動。本書はそのマニフェストの書。四六判 本体 6100 円

自民党改憲草案を読む

自民党改憲草案・日本国憲法付録

横田耕一著

憲法学者が自民党改憲草案を丹念に解説し、立憲主義を否定するその危険な本質を明らかにし、私たち自身の憲法理解を深める。今必読の書。A5 判 本体 900 円

なぜ「秘密法」に反対か

開かれた平和な国のために祈りつつ

特定秘密保護法に反対する牧師の会編

12 月 6 日憲法が成立した。なぜ反対か、またキリスト者として、教会として今何をすべきかを 33 名の牧師が訴える。秘密法全文を収録。A5 判 本体 1300 円

● 待望の新装復刊

イースター・ブック

改革者の言葉と木版画で読むキリストの生涯

マルティン・ルター／R. ベイントン編／中村妙子訳

ルターが残した膨大な説教から、キリストの受難と復活に関するものを、宗教改革史研究の碩学が精選。またルターと同時代の画家ソリスの木版画を多数掲載。改革者の信仰の真髄。

◆ B5 変型判・本体 1800 円



正田倫顕著

ゴッホと〈聖なるもの〉

見る者の魂を震わさずにいないゴッホの作品。その核にある宗教性の内実＝作品がはらむ〈聖なるもの〉の秘密を、書簡と作品の徹底的な分析を通して明らかにした俊英の労作。

◆A5判・予価2700円

栗林輝夫著

日本で神学する 栗林輝夫著作集1 (仮題)

惜しまれつつ逝去した栗林輝夫の著作集(全二巻予定)。第一巻は、日本という文脈に根ざして神学を営んだ著者の論考を精選。解放神学者としての賀川豊彦論・田中正造論から、ポスト・フクシマの神学まで。実践に固執した栗林神学がここに!

◆A5判・予価3500円

宮平望著

神の和の神学へ向けて 三位一体から三間和の神論へ

キリスト教の中心教理を日本の文脈で再構築しようとする独創的な企て。日本の神学への貴重な貢献であると同時に、西洋的伝統にある人々にもチャレンジする。すぐ書房版の復刊。

◆A5判・予価2400円

● 3月に出た本と雑誌

宗教改革の人間群像

木ノ脇悦郎著 エラスムスの往復書簡から

8人との文通・思想交流。 ◆四六判・本体3000円

文脈化するキリスト教の軌跡

イギリス人宣教師と日本植民地下の台湾基督長老教会

三野和恵著

新分野を拓く画期的労作。 ◆A5判・本体7000円

原子力発電と日本社会の岐路

聖書と共に考える混成型共生社会と脱原発

姜尚中・上山修平著 日本クリスチャン・アカデミー編

白熱したシンポの記録。 ◆四六判・本体1500円

イエスの譬え話2

山口里子著 いのちをかけて語りかけたメッセージは?

フェミニニスト神学の成果。 ◆A5判・本体2200円

福音と世界

◆税込635円

4月号 特集 結婚の変容——宗教改革500年 ④

寄稿者・村上みか、小田部進一、菊地純子、澤村雅史、水野宏

桑野萌／小原克博、塚本潤一／高井ヘラー由紀、吉松純、

町田康、内田樹、佐藤優、芦名定道、辻学、月本昭男、

望月麻生ほか

●「共謀罪」あらため「テロ等準備罪」がいよいよ国会審議に入ります。名称をいくらか言いかえたところで、本質的な問題は変わりません。むしろその「テロリズム集団」という名ざしの行為が凶らずもあらわにしているのは、異質な他者を対話不可能な「敵」とみなすことの危うさなのではないでしょうか。こうした呼び名に頼らず、いかなる「敵」ともより平和的な関係をとれどもつ技法を社会全体で習熟させていくことが、かの法案を真に無用のものとするためには必要でしょう。

●そこで格好の指南書となってくれるのが、今月刊行する宮田光雄著『山上の説教から憲法九条へ』です。比類な

き知識と洞察、そして信仰をもつ政治学者である著者が、山上の説教についての聖書学的解釈と、兵役拒否や非暴力抵抗運動をめぐる実践的議論とを往還しながら、来たるべき神の国の《しるし》として地上に平和を実現する責務を、キリスト者こそは負っていると説きます。それも、「エキュメニカルな教会組織こそ、普遍的課題としての平和奉仕の新しい次元を切り開く」のだと。「小異を捨てて大同につく」が必ずしもよいとは限りませんが、異なる信仰や生活形態をもつ者同士が協力して状況の変革に取り組むことが、平和への第一歩であることは疑いえないように思います。(堀)

これから出る本より

イエスは、まったく新しい創造的な愛敵の行動を命ずる。すなわち、コンフリクトを回避するのではなく、それを自覚的に——ただし《別の政策選択》の仕方——担いとしていくというのである。(中略) イエスの説く非暴力は、そうした敵対者にたいする挑発的な働きかけにほかならない。攻撃・報復という悪循環を一方的に断ち切るとき、そこに生ずるショック効果によって、敵対者の行動・態度の変革を引き起こされることを期待するのである。「悪に手向かつてはならない」という戒めは、むしろ、パウロ的に「善をもって悪に勝ちなさい」(ローマー二・二一)と言ひあらわすほうが、いっそう正確であらう。

(宮田光雄『山上の説教から憲法九条へ』より)

福音と世界

2017年

5

A5判・80頁・定価635円・送料70円
年間予約購読料(送料共)8460円

特集・サクラメント——宗教改革500年⑤

ルターとサクラメント——鈴木 浩

カトリック教会の秘跡理解——具 正謨

この世とわたしの「性」——現代カトリックにおけるサクラメントの意味——原 敬子

機密としての「たべること」——正教の理解——松島雄一

クエーカーのサクラメント論——中野泰治

サクラメントの復権——プロテスタント教会の宣教のパラダイム転換——藤井 創

書評 青野太潮『パウロ』——深澤 奨

【連載より】

- ◆ はじめての台湾キリスト教史 2……高井ヘラー由紀
- ◆ みことば散歩 5……望月麻生
- ◆ アメリカの神学と教会のいま 7……吉松 純
- ◆ 現代神学の冒険 8……芦名定道
- ◆ 新約釈義 第一テモテ書 15……辻 学
- ◆ 聖書とわたし 16……ブレイディみかこ
- ◆ レヴィナスの時間論 26……内田 樹
- ◆ 詩篇の思想と信仰 144……月本昭男